

自分たちの課題を自分ごと化する ～看護の新たな一歩～

2024年 3月29日
社会医療法人社団 陽正会
介護医療院みのり
入所部門 看護職

1. 令和5年度の取組経緯・目的

初回の対話で見える化されたこと（現状課題感や今後の展望など）

- これまでの改善活動はどちらかというと介護主体で、看護職員は自分ごととして捉えられていない
- 介護施設転換前からの職員が多く、これまでのやり方を変えることに抵抗感がある
- 新しいことに挑戦することに対して不安感がある
- 今のままではいけない、良くしていきたいという思いはあるが、自分たちではどのようにしたらいいのかわからない
- また、現場リーダーは今後の進め方に困っている

今回の取り組みで行いたいこと(方向性)

伴走支援での取組で学んだ経験を、施設内で横展開し、
今度は、看護職員にとって意味のある活動や体験にするために、職員の声をきき、1つの業務に対する業務棚卸しを実施し、自分たちで工夫して小さく改善活動をする。

2. 取組の流れ（全体像）

P	手順 1	改善活動の 準備	・改善取組チームをつくる ・取組のリーダー選出 ・現状把握アンケート、ヒヤリング ・アンケートやヒヤリング結果に基づき対話 ・実施テーマ、内容などの絞り込み・決定
	手順 2	現場の課題を 見える化	
	手順 3	実行計画を 立てる	
D	手順 4	改善活動に 取り組む	・改善活動の段階的实施 ・夜勤業務工程の棚卸し、テクノロジー活用の検討
C	手順 5	改善活動を 振り返る	・効果検証 ・ミーティング実施（良かった点、今後改善する点）
A	手順 6	実行計画を 練りなおす	・実行計画の見直し（うまくいかなかった点について）

手順 1 改善活動の準備

- 経営層、マネジメント層との対話により課題感を整理
- 取組リーダー選出
- 取組リーダーから取組宣言・全スタッフへの周知

手順 1 改善活動の準備

リーダー職員からのヒヤリングで見える化されたこと

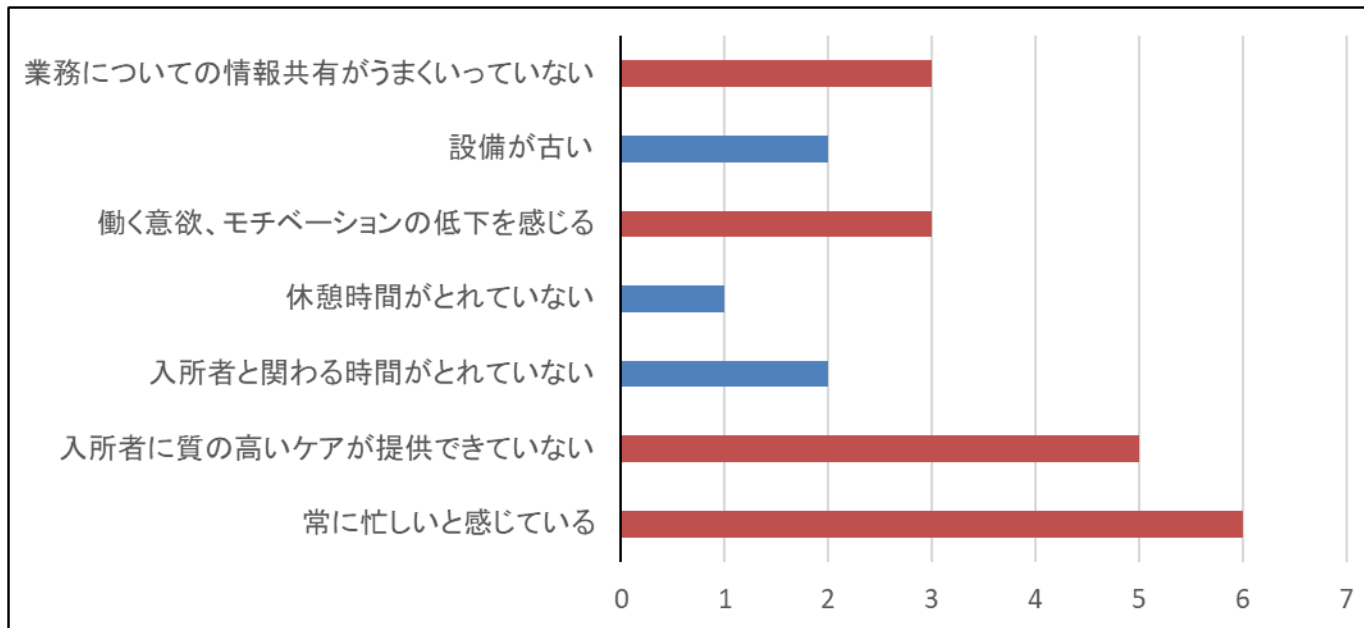
- 1 日の業務スケジュール、役割がおおまかにしか決められておらず、業務の進め方や手順は、個々の判断や経験に頼っている。そのため業務全体の流れ、看護ケアの質が日によって異なる
- 介護施設転換後も、医療機関のときのままの手順・基準・ルールが見直されないまま残っており、看護業務の多くは、担当制（部屋もち）という考え方で行われている
- そのため、担当部屋に、重症者やターミナル、入退所、受診などが重なる場合は、「担当者が1人でみないといけない」という精神的負担や、業務量が偏ることによる身体的負担がある。
特に、経験の浅い職員や新職員は、状態変化や急変、夜勤業務にたいする不安や負担を感じやすい傾向がある
- また、2 F(経口)、3 F(経管)というフロアの特徴から、職員の意識として医療依存度の高い経管フロアだけが看護の仕事という固定観念から、担当部屋や 3 フロア以外のことは、「知らない」「わからない」といったことが日常的にある

手順2 課題の見える化

業務についての課題感（気づきシート）

- 業務量が多く、常に忙しいと感じており、休憩がとれていないと感じている人が多かった
- 入所者と関わる時間がなく、質の高いケアが提供できていないと感じている人も多かった
- 働く意欲、モチベーションの低下、情報共有の不足を感じている人も多かった

改善活動前



■気づきシート

- ・業務を行っている際に感じた課題や気づきについて、自由に記述してください。 ※1枚につき1つの「課題」や「気づき」を記載してください。
- ・課題や気づきの内容は、大きな文字で一言または単語で書いてください（例：人手不足、業務が統一されていない）。

いつ？（例：夜勤、朝礼、送迎・・・）

どこで？（例：利用者の居室、浴室、送迎者・・・）

※いつ・どこで、の記載が難しい場合は、空欄でも構いません。思いついた課題や気づきをどんどん書いていきましょう。

どんな課題や気づき？

手順2 課題の見える化

【取組のテーマ】

夜勤業務の改善

【目指すところ】

これまでの固定化、習慣化された基準・ルール・手順や考え方を見直し今より現状を良くすること。そして今回の取り組みをきっかけに、今後看護職員が主体的に自分たちの業務改善の取り組みを展開することを目指す

手順3 実行計画をたてる

■主な実施事項

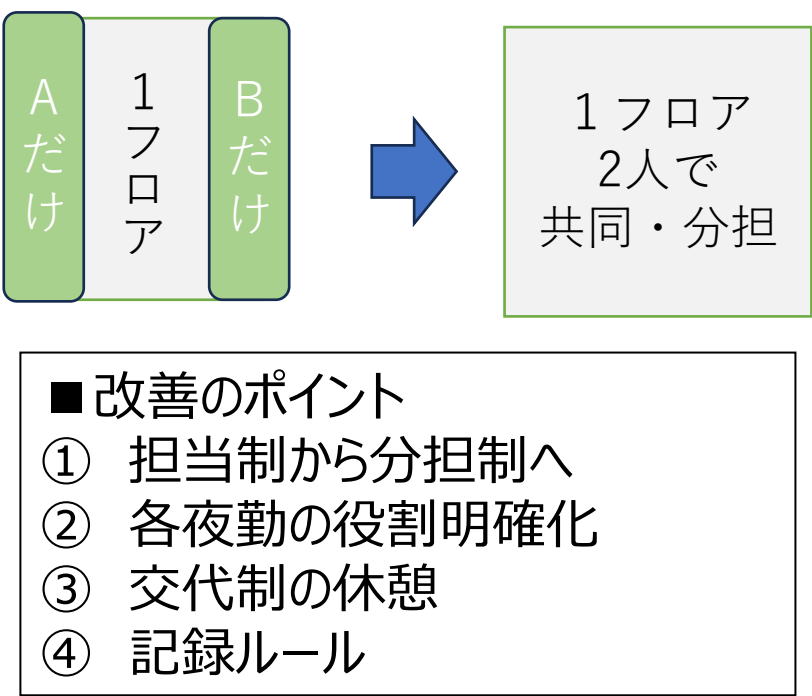
- ①現状の夜勤業務工程のどこにムリ・ムダ・ムラがあるのか、どのような基準・ルール・手順があればいいのかを、対話をとおして考える
- ②タイムスケジュールを修正する
- ③タイムスケジュールは実際の夜勤業務の場面で活用し、気づいたことを共有し、新たな工夫、修正を繰り返す

手順4 改善活動に取り組む

(作成したタイムスケジュール)

入所生活時間		夜	夜
		16~9	16~9
0	就業	夜1(809)	夜2(810)
1		0時 巡視・記録 吸引コップ配る 朝の薬・注入食準備	休憩
2		巡視 吸痰・休憩(左)	
3		休憩	2時 4時 巡視・記録 ※5時までに注入食配る ※顔・下清拭スリッパ
4			オムツ交換・休憩(右)
5		吸痰・BS・薬 注入食	吸痰・BS・薬 注入食
6	起床	注入食回収	注入食回収
7		整容介助	整容介助
8	朝食	記録	記録
9	排泄	休憩	休憩
10	入浴・機能訓練	食事前吸引 2F BS インシュリン	口腔ケア準備
11		薬翌日屋までカップへ 薬のダブルチェック ピックアップ申し送り 入浴者検温(平日のみ) 日誌を持って降りる	薬翌日屋までカップへ 薬のダブルチェック 薬の注入食準備 薬の準備

(担当制⇒分担制のイメージ)



(記録ルール)

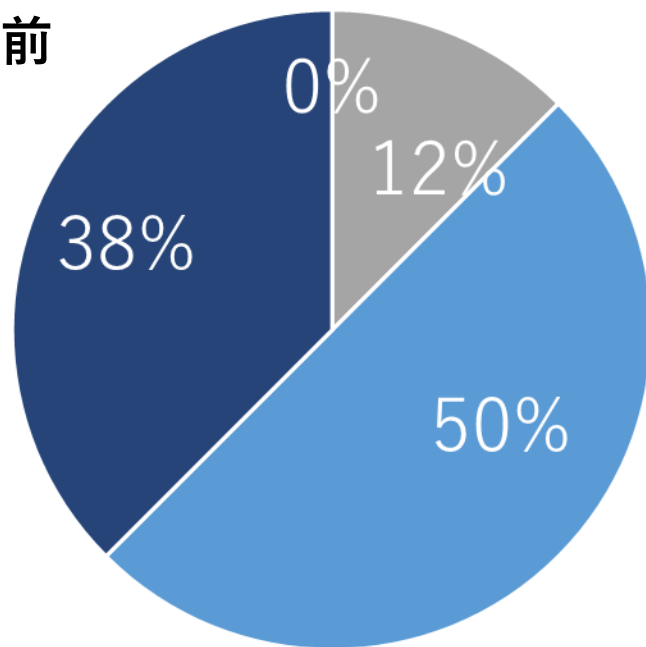
記録一覧				2023/12/30 改定
必ず記録すること	画面	画面	種別	ケース記録におとす内容(特記事項)※申し送り
指示	看護	処置	指示	担当Drからの指示内容
処置	記録	処置	処置	看護職が実施した処置・内容・状況(皮膚観察以外)
皮膚観察(毎日観察)				要観察者の「処置内容(皮膚観察○)」→ケースへ観察結果
予防評価(入浴時週2回)		看護ケア	リスク予防	①前回より(悪化・改善)があった場合→ケースへ詳細記入、翌日から毎日観察の対象者へ変更(↑皮膚観察(毎日観察)の記録方法) 前回と変化がない場合→「○」のみ(ケースにおとさない) ②状態状態変化があった場合、予防評価実施「○」→「ケース」へ入れる
バイタル	生活支援	バイタル	バイタル	バイタルの異常があった場合(本人の様子・訴えなど) ターミナル(本人の様子・訴えなど)
食事	記録	食事	食事	摂取量が5割以下の場合・食事および水分の拒否 ② 決まった食事時間以外で摂取した場合(理由) 本人の様子(通常とは異なるムセ、咳、咀嚼嚥下、摂取状況など) 食事内容の変更
排泄		排泄	排泄	尿・便・性状の異常、失禁、更衣、反応便の有無 ターミナル、本人の様子(体調全般の異常・訴えなど)
入浴		入浴	入浴	入浴中止した場合(理由)、全身清拭の有無 本人の様子(通常とは異なる様子)
体重		身体計測	身体計測	3kg以上の増減があった場合
夜間巡視		日常	巡視	0時 2時 4時...「覚醒」表示、「異常値」表示の人(訪室時の状況) その他時間...通常とは異なる行動や発言
ケア実施の記録(※ケアプランとの連動)			ケア実施	介護看護の目標に対して、援助内容を実施した時の様子 ⇒1日3名(日勤)2名(夜勤)決めて実施、記録
カンファレンスの記録			カンファレンス	カンファレンス参加(定期・臨時) ※実施「○」
眠りスキャン評価対象者		日常	眠りスキャン評価	「体調異常」「転倒リスク」「生活リズム改善」分析対象者の状況 ※実施「○」→ケース(日誌観察の結果)→申し送り
排泄アセスメント			排泄アセスメント	排泄支援機器を使用したアセスメント結果 ※実施「○」

- 作成したタイムスケジュールと記録一覧表は、実際の夜勤場面で使用し、気づきを共有しながら、修正、実行を繰り返す
- 取組の目的を、何度も繰り返し説明し意識づけを行う

手順5 改善活動を振り返る（取組成果※実施後アンケート）

仕事の“やりがい”

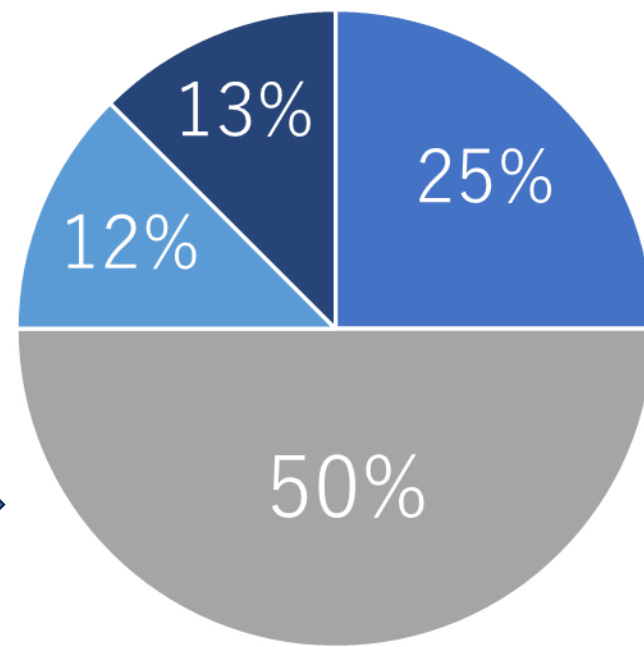
取組前



12%

（とても感じる・ある程度感じる）

取組後



75%

（とても感じる・ある程度感じる）

63%UP

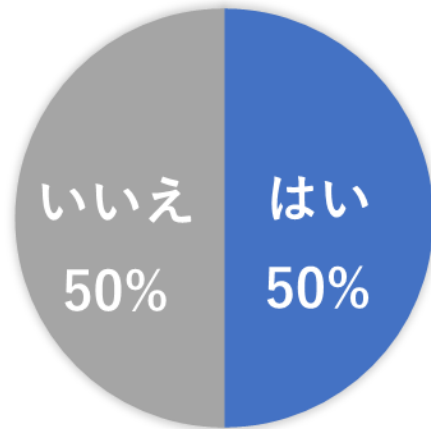
- とても感じる
- ある程度感じる
- あまり感じない
- まったく感じない

手順5 改善活動を振り返る（取組成果※実施後アンケート）

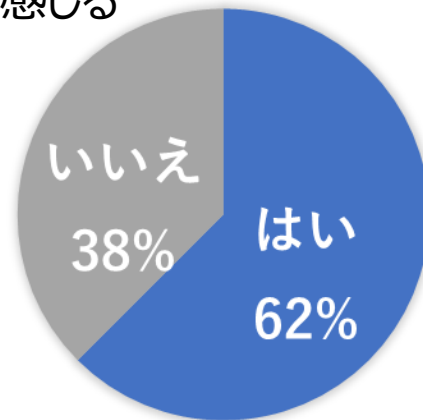
① 担当制から、分担制にした感想、変化したこと

- 1人で部屋を受け持つ不安や、担当以外のことは「知らない」「わからない」という状況が減った、が半数
- 全体の約8割が、担当制にしてよかったと回答
- しかし、だれと夜勤をするかで、自身が感じる負担感に差がある、と回答した方が、約8割いた

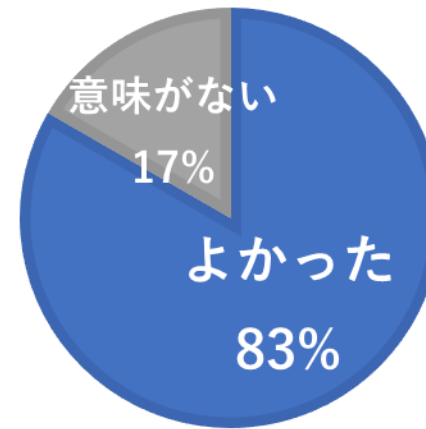
一人で受け持つ不安
感が軽減した



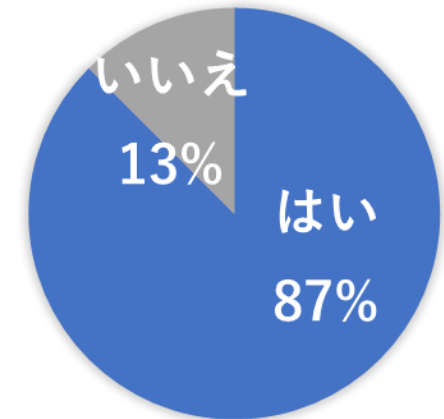
担当する部屋以外のことは「知らない」「わからない」という状況が減ったと感じる



担当制から分担制にした感想



夜勤者の組み合わせによって、自身が感じる負担感に差がある

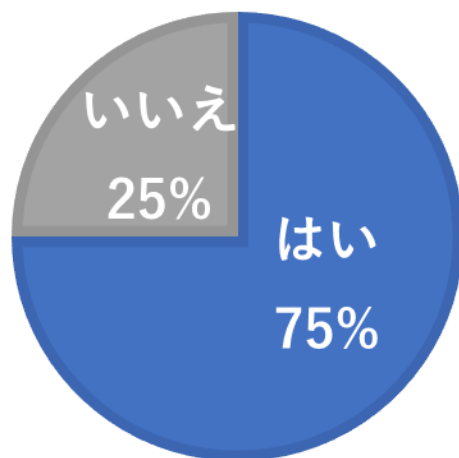


手順5 改善活動を振り返る（取組成果※実施後アンケート）

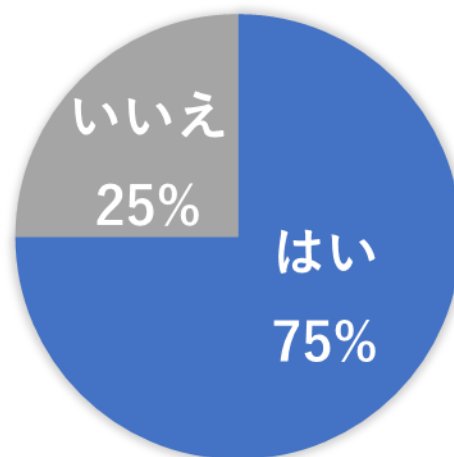
②業務分担を明確化した感想

- 業務の偏りが減った、自分が行う業務がわかりやすくなった
- 以前よりも、仕事がしやすくなった、と回答した方が約 7 割いた

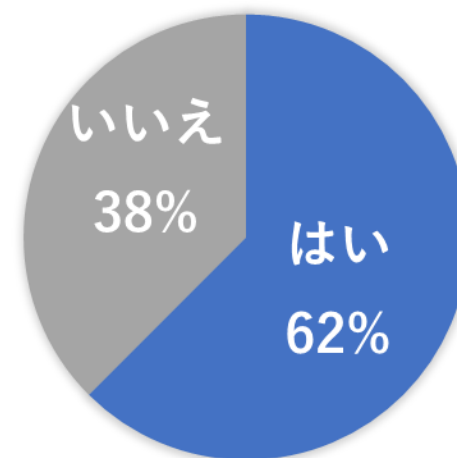
業務の偏りが減った



自分が行う業務がわかりやすくなった



仕事がしやすくなった

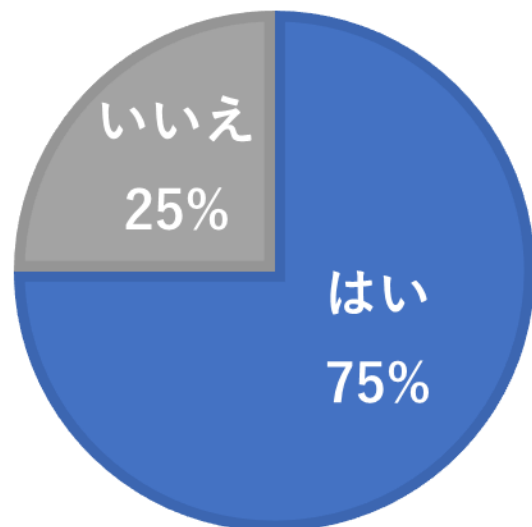


手順5 改善活動を振り返る（取組成果※実施後アンケート）

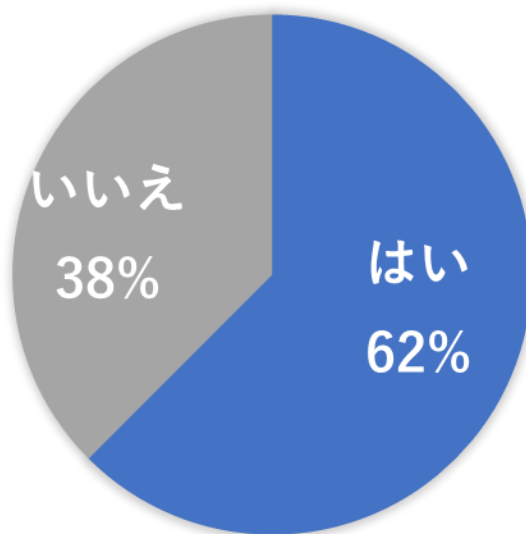
③交代制の休憩時間にした感想

- まとまった休憩時間がとれるようになり、身体的負担が減った、が約7割
- 責任感が増したと感じる、と回答した方が約6割
- しかし、確実に休憩がとれているか？の質問に対し、約4割が「いいえ」と回答していた

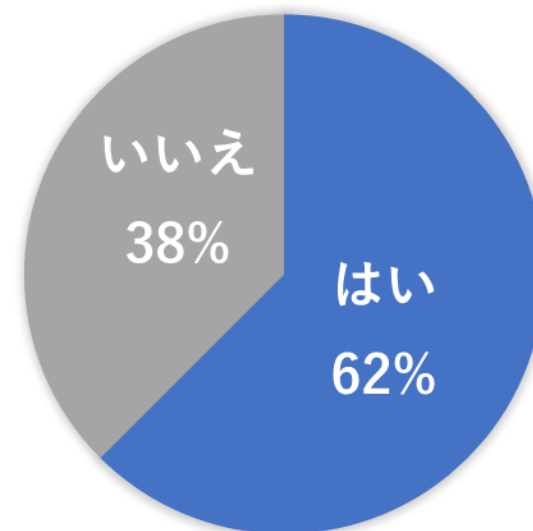
身体的負担が減った



責任感が増したと感じる



確実に休憩がとれている

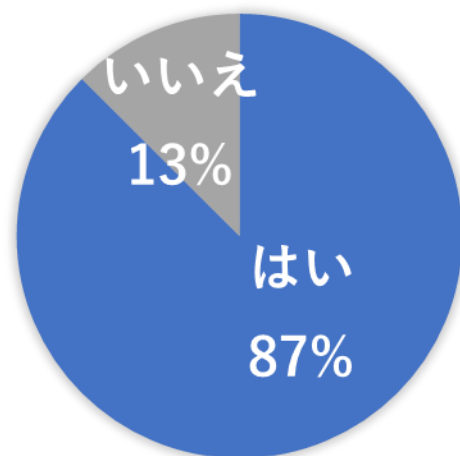


手順5 改善活動を振り返る（取組成果※実施後アンケート）

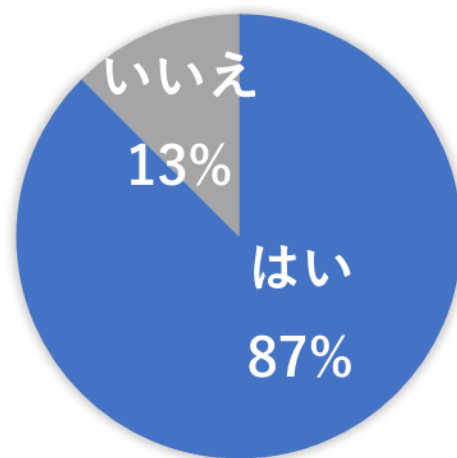
④眠りスキヤンの使用状況

- 夜勤中の巡視・見守り、体調把握がしやすくなったという方が、約9割いた
- しかし、ターミナルや夜勤自体の不安が減ったという方は、いずれも半数だった

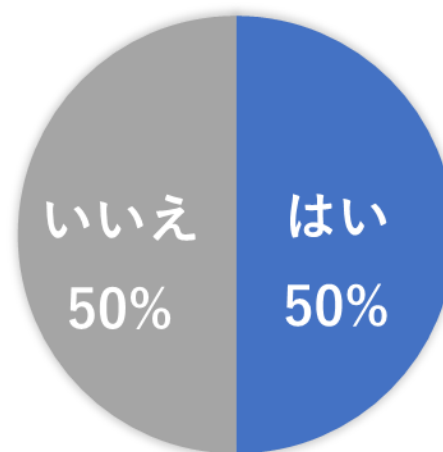
巡視・見守りが
しやすくなった



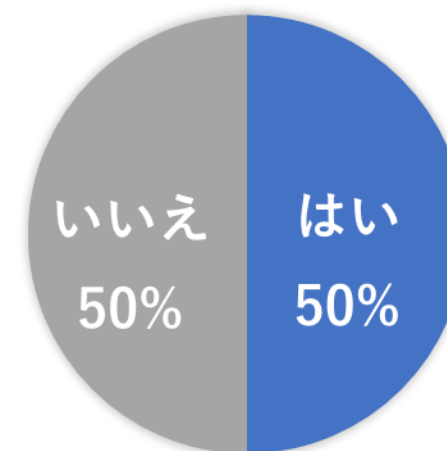
入所者の体調把握がし
やすくなった



夜勤の不安が減った



ターミナル時の不安が
減った

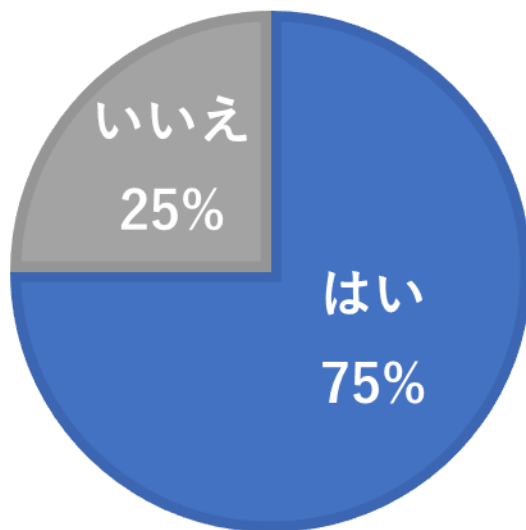


手順5 改善活動を振り返る（取組成果※実施後アンケート）

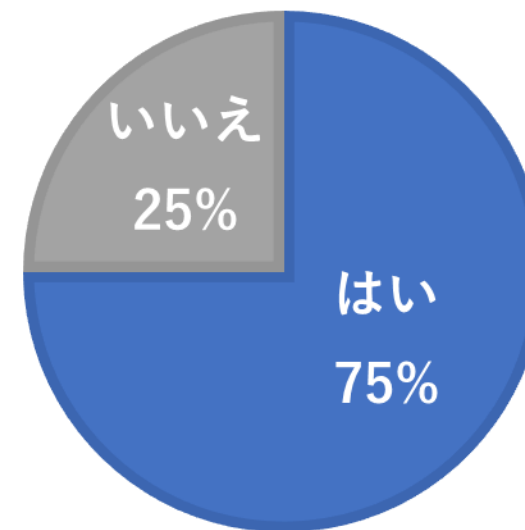
⑤記録のルール決めによる変化

- 記録時間の短縮、負担が減ったと回答した方が、約 7 割

記録時間が短縮できた



記録の負担が軽減した

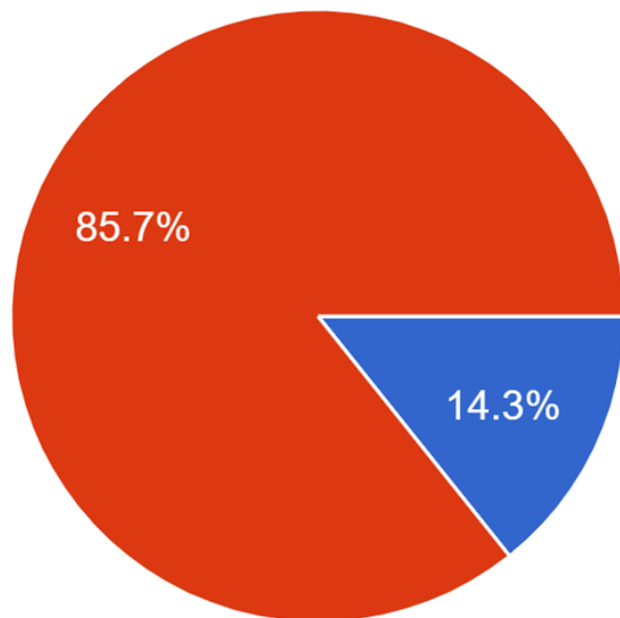


手順5 改善活動を振り返る（取組成果※実施後アンケート）

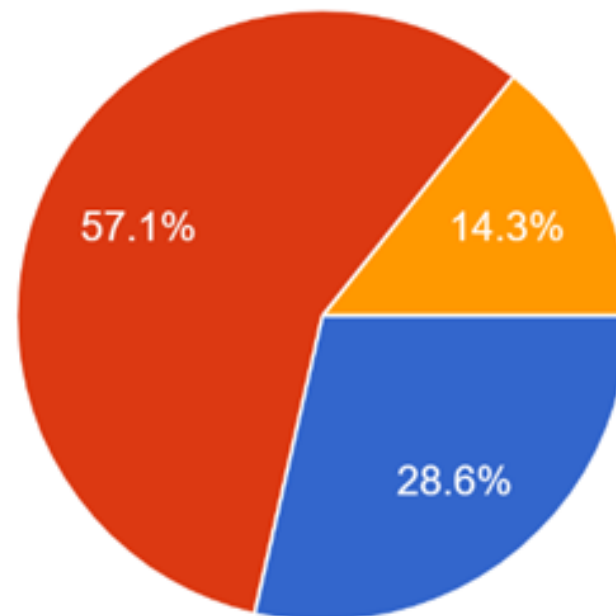
新職員（夜勤専従）の感想

- ・タイムスケジュール、記録ルールはわかりやすい、と回答した方が多かった
- ・経験の浅い職員や、新職員でも使いやすいことがわかった

夜勤タイムスケジュール



記録ルール

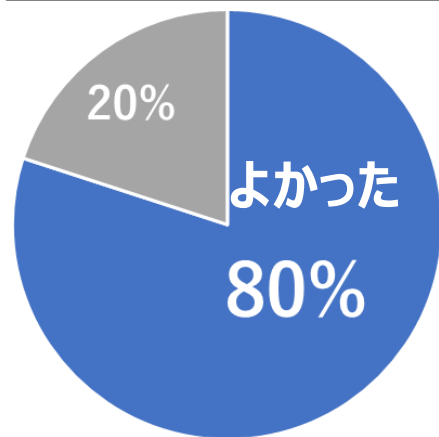


- とてもわかりやすい
- わかりやすい
- ややわかりにくい
- わかりにくい

手順5 改善活動を振り返る（職員の声）

今回夜勤業務の改善活動を行っての感想

- 行なってよかったという方が80%
- 業務改善の重要性を感じることができ、ICTへの抵抗や不安感も減った、という方が多かった
- しかし、その一方で、業務効率の成果を感じてはいるものの、実際の業務量や時間に関係なく、個々の性格や考え方の癖、技量、職員同士の関係性などを理由に、必要以上に不安や負担感を感じやすい傾向がある、という課題も浮き彫りとなった



眠りスキャンのような介護ロボット、機器への抵抗感、不安感が減った

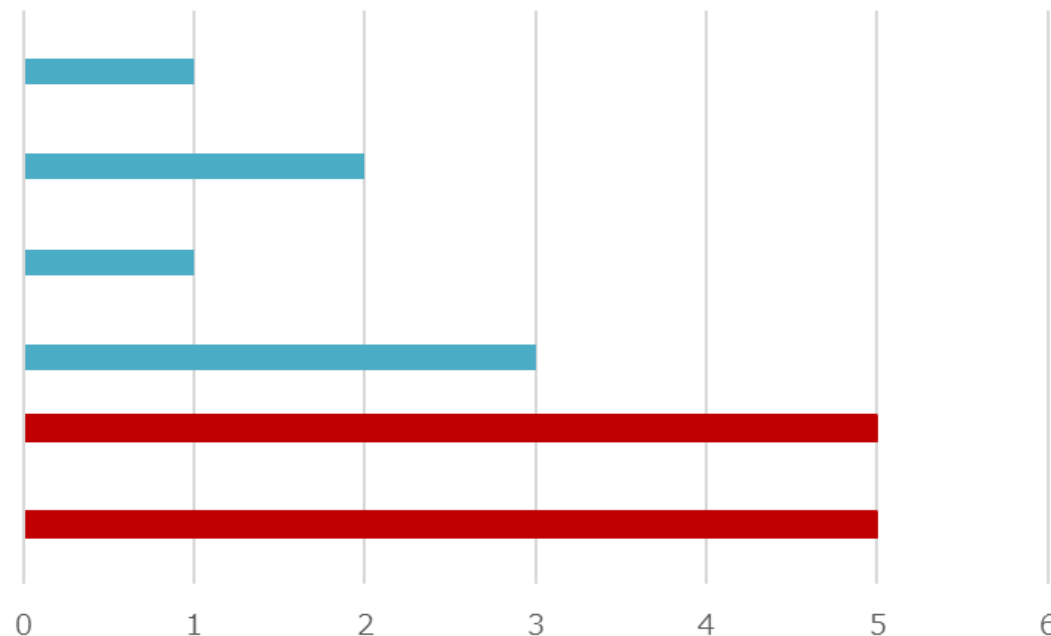
現場の課題や状況に合ったタイムスケジュール見直しの重要性を感じることができた

改善活動は大変なのでもうしたくない

もっとこうしたいというものが生まれた

職場の雰囲気はよかった

夜勤業務がよい方向に変わっていると思う



手順5 改善活動を振り返る（プロセスの振り返り）

手順1～4のプロセスで、事業所として

■ 上手くいったこと・工夫したこと

- 共有アプリ(LINEWORKS)を活用し、取組内容の伝達がスムーズにできた
- 夜勤申し送りが短縮できたので、看護の申し送り中に他職種が声をかけづらいという状況がなくなった

■ 上手くいかなかったこと・苦労したこと

- これまでの習慣や意識をアップデートしていくことは、想像以上に大変だった
- LINEでの一斉伝達や、会議での全体説明だけでは、取組内容の理解不足や取組自体に賛同を得られにくい職員が一部いた。そういった職員に対し、都度時間をかけて一人ひとりに説明をすることに苦労した

手順6 実行計画を練り直す

チーム内での反省を元に、次なる実行計画を作成する

- ・ うまくいったことは次の課題へ
- ・ うまくいかなかったことは、原因をみんなに対話して実行計画を改めて見直す

まとめ

■今回の取組をとおして学んだこと、感じたこと、今後取り組んでみたいこと

- はじめての看護の改善活動に不安もあったが、ひとつずつ課題にたいして取り組むことで、よい方向へ向かっていくとおもった
- これまでの習慣や、こうでなければいけない、という固定観念をくずす過程は大変だった。
しかし、業務工程を整理していくうちに、すこしずつシンプルに考えることができるようになり、自分たちのやり方、考え方をブラッシュアップしていく必要性を感じる良いきっかけとなった
- 今後も、他業務においても優先順位をつけながら工程を整理し、ひとつずつ改善していきたい
- まだまだ課題は多くあるが、自分だけでなく、みんなが働きやすくなるためにはどうしたらいいのか、どうすれば今よりもっと良くなるのかについて、職員との前向きな対話を深めていきたい

ご清聴ありがとうございました。



社会医療法人社団陽正会
介護医療院みのり
広島県府中市元町43番地1

T e l 0847-45-4571
Fax 0847-40-0017
Mail minority@youseikai-grp.jp
<https://www.youseikai-grp.jp/kh/>